書　評

みすず書房（昭和56年11月）

チャップマン著
中西重康訳

天国と地獄
——エネルギー消費の三つの透視図——

評者　赤川浩爾*
Koji Akagawa

表題の「天国と地獄」は一見してオペラの題名のようであるが，まさしくエネルギー問題の著書である．原著の題名は Fuel's Paradise であり，訳者のあとがきによると「おそらく Fool's Paradise（愚者の楽園，幸福の幻想）をもじったものであろう」となっている．なお副題はEnergy Options for Britain であって，本書の後半の「英国」に対するエネルギー政策の三つのオプションの論議を意味している．

第1章は，地中海にある小島のエルグ国の寓話から始まる．この国は孤立主義的な経済政策をとっていて，海外との貿易は政府の認可による少量の物々交換のみである．国民は政府から一定の金額の支給を受け（これは xat とよばれる—— tax の逆からくる），自家菜園のできる大きな庭のある住宅をもっていて，「非常に快適な生活を送るための基盤が与えられている」．この国の通貨の単位は「キロワット」であり，物価は「原料の供給，工場の建物，機械の運転に使用されるエネルギーを含めて生産に必要であったエネルギーの総量」（エネルギーコスト）で決るので，その単位は「キロワット」である．この寓話によって，我々の生活に必要なエネルギー量（需要）の問題と，この閉じられた社会における燃料，原料などの総インプットと消費の全アウトプットの収支問題が示唆されていて，第2～7章のエネルギー需要の分析とエネルギーアナリシスなどの論議の導入となっている．

エネルギーアナリシスに関しては入門書として極めて明快で詳細の論議がなされており，特に原子力発電所に関する分析では著者による有名な分析結果も述べられている．また燃料の大量消費に伴う気候の変化などの熱力学的問題も明快に解説されていて，エネルギー問題を総合的に考える上での基礎が与えられている．

後半の第8～13章においては，燃料の供給と消費に対して英国のとりうる三つの方策が論じられている．第1章の「放任型（business-as-usual）」は従来通りまたそれ以上のエネルギー消費生活を続けるとの仮定に対するものであり，第2の「省エネルギー型（technical fix）」は我々の生活様式を実質的に変えないで，技術的方法で燃料消費を著しく減少させようとするものであり，第3の「低成長型（low-growth）」は我々の生活様式を将来に慎重かつ大幅に変えようとするものである．著者はこの具体的な検討例によって次の見解を明らかにしている．すなわち「エネルギー問題には，すべての技術的・社会的・政治的選択と同じく，当事者たちがわれわれに信じこませようとしているよりもはるかに広範囲のオプションがあるということである．」

これらのエネルギーアナリシスとエネルギー方策は公正な立場で精緻な理論により記述されているが，この本を読んでいると著者の人間観にもとづいた生の声が聞えるように感じられる．それは著者の「人間の福祉は生活の物質的側面にそれほど依存はしていない．各個人が家族・仕事の仲間・友人と持っている関係の方がはるかに重要である」という思想によるものであろう．

この本の最後は，エネルギー政策を嵐にひきこまれようとしている帆船のたとえにより「ともかくエネルギー政策号のために誰かが舵を発明しなければならない」と結ばれている．

訳者は大阪大学・機械工学科の中西重康助教授であり，本誌の編集実行委員である．その専門の熱工学の基盤に立って，非常に読みやすい訳となっている．エネルギー問題に関係する広い分野の人々に読まれてほしい良書である．

* 神戸大学工学部教授
〒657 神戸市灘区六甲台